平成18年度

# 病害虫発生予察特殊報 第2号

平成 18 年 8 月 10 日 茨城県病害虫防除所

Tel: 029-227-2445

# トマトすすかび病の発生について

病害虫名:トマトすすかび病

発生作物:トマト

病原菌: Pseudocercospora fuligena (Rolan) Deighton

#### 1. 発生経過

(1) 平成17年11月,旧谷和原村(現つくばみらい市)のトマト(葉かび病耐病性品種)において、葉に黄斑を生じ、その上に灰褐色粉状のかびを生じる症状が発生した。一見したところ、トマト葉かび病に酷似していたが、顕微鏡で観察したところ、トマト葉かび病菌とは明らかに異なる分生子が認められた。このため、農業総合センター園芸研究所に病原菌の同定を依頼した結果、本県ではこれまで発生を認めていないPseudocercospora fuligena (Rolan)Deighton によるトマトすすかび病であることが確認された。

### 2. 病徵

- (1) 葉に発病し、初期は葉裏に淡黄色の不明瞭な病斑を生じ、やがて灰褐色粉状のかびを生じる。病勢が進むと、円形あるいは葉脈に囲まれた不正形病斑となり、灰褐色から黒褐色に変わる。葉表は葉裏よりやや遅れて、淡黄褐色の病斑を生じ、かびを生じるが、葉裏に比べて少ない。(図1、2)
- (2) 病徴は葉かび病と酷似するが、葉裏の菌そうは、すすかび病の方が少し黒みが強い。

#### 3. 病原菌の特徴と本病の発生生態

- (1) 糸状菌の一種で不完全菌類に属する。生育適温は 26~28℃, 分生子の形成適温は 18~22℃, 分生子の発芽適温は 26℃付近である。(図3)
- (2)被害株の残渣で越冬し、翌年の伝染源となる。多湿条件で発病しやすく、密植、過繁茂、換気不足の施設栽培で発生しやすい。

### 4. 防除対策

- (1) 密植,過繁茂,換気不足の場合に発生しやすいので,通風に心がけ,多湿にならないよう管理する。
- (2) 発病葉、被害残渣は圃場外に持ち出し、土中深く埋めるなど適切に処理する。



図1 発生状況





図2 葉の病徴(写真左:葉表,写真右:葉裏(画像処理により左右を反転))

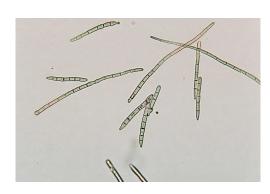




図3 分生子(写真左:すすかび病菌,写真右:葉かび病菌)